

まちづくり活動助成 **地域“魅力”アップ部門** “はじめの一步”部門

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	「名古屋空襲を語る」の出版（23年度製作映画の書籍化）		
団体名	名古屋活動写真		
提案の活動を行う地域	名古屋市域		
提案の内容	<p>23年度に貴センターの助成を得て製作したドキュメンタリー映画「名古屋空襲を語る～今を生きる人へ～」を書籍化（ノベライズ）し、市内公共施設、公共的団体に配布する。</p> <p>1 企画の経緯</p> <p>ドキュメンタリー映画「名古屋空襲を語る～今を生きる人へ～」は、歴史研究家以外にも多くの市井の名古屋空襲体験者（合計71名）に取材し、その方々の語りを中心に、市井に眠る資料、写真、映像等の素材も使用し、90分のドキュメンタリー映画として製作した。</p> <p>この映画をより多くの方に書籍という媒体でもそのメッセージを伝えるとともに、90分の映像では表現できなかった貴重な体験等を埋没させることなく、後世に記録として残す必要があると考える。</p> <p>特に研究者向けではなく、市民向けのわかりやすい文章とビジュアルを多用した編集で若い年代にも読みやすい書籍とする。</p> <p>東日本大震災後の復旧、復興が進むなか、「名古屋空襲を語る～今を生きる人へ～」のDVDと合わせて、書籍により、若い年代にも平和で安心、安全に生きることの意義を訴える必要があると考える。</p> <p>2 書籍の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材した名古屋空襲体験者の「語り」を映画で使用しなかった部分を含め文章化 取材で収集した写真、映像等の資料 上記資料のほか、都市センター等の資料を利用して、名古屋の戦災復興の過程をわかりやすい形で編集 		
活動期間	平成24年4月～平成25年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か
<p>(提案活動の必要性について上記観点から分かり易くご記入下さい。)</p> <p>※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争から長い年月を経て、戦争前、戦争時の名古屋を知る世代が少なくなり、市井に眠る貴重な資料も失いつつある。 ・今まで多くのことを語らなかつた、語ることができなかつた市井の市民が多くいる。 ・こうした人々の「語り」、資料を記録にとどめるには残り限られた時間となっている。 ・今こそ戦前、戦後の復興、その歴史的な転換点となった「名古屋空襲」を、これらを体験した人々の「語り」により「名古屋への思い」「名古屋のまちの記憶」を貴重な資料とともに、「記録」することの重要性を感じている。 ・歴史的な転換点となった「名古屋空襲」をメインテーマにすることにより、「名古屋のまち」をあらためて振り返り、その「歴史と今及び将来」を浮き彫りにできる。 ・前回のプロジェクトで本会は、90分のドキュメンタリー映画として制作したが、DVDで使用したもの以外の膨大な証言で貴重かつ次世代に残すべき「語り」、資料がある。 ・これらに加え、都市センター等収蔵の資料も活用し、実際の名古屋空襲体験者のリアルな語りと関連資料で、ビジュアルを多用し、わかりやすく読みやすく、訴求力のある書籍とすることが可能である。 	
審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋空襲」を戦前と戦後の都市（構造）、産業の転換点の視点ではなく、市井の市民にとっての「暮らし」「生活文化」「まちへの思い」の転換点と捉える。 ・名古屋の歴史の転換点である「名古屋空襲」、戦後を体験している世代は、高齢化により減少しつつある。 ・この世代の市井の「生き証人」の「語り」によって、名古屋の「まちの記憶」を、失いつつある貴重な映像、写真、資料とともに、記録する。 ・歴史研究書、行政の戦災復興記録は市民にはとくく読みづらいが、名古屋空襲体験者の語りを中心として、市民目線で、ビジュアルを多用することにより、若い世代にとっても読みやすく、わかりやすい編集とする。 	
審査基準③ 実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か
時期	活動内容
平成 24 年 6 月 ～ 10 月 11 月 ～25 年 1 月	「名古屋空襲を語る」での取材映像(DVテープ)の書籍化写真へのファイル変換 映像からの文章化、資料収集 構成、編集 校正 印刷 製本 都市センター、公共施設などに配布

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
DV テープファイル変換	スタジオ使用料	@3,000×50 時間	150,000
書籍化	執筆料 製本印刷費	映像からの文章化	250,000
		構成、編集、校正、印刷	250,000
その他	交通費 事務費	資料収集、スタジオ移動等	30,000
		事務用品、コピー等	50,000
計	都市センター助成金 500,000 円 自己資金 230,000 円 (会費、協賛金、自己資金)		730,000

審査基準④ 発展性

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

22年度には都市センターの助成は獲得できなかったものの「開府四〇〇年 名古屋の山車祭り」を製作するにあたり戦時、戦後を生き抜き、名古屋の復興、まちづくりを担ってきた多くの市井の方々を取材し、マスコミにも取り上げられ、「七間町橋弁慶車お囃子の復活」と「名古屋空襲を語る」の記録映画製作につなげることができた。本年も「名古屋空襲を語る」の書籍化(今回申請)のほか、「名古屋城物語(仮題)」の記録映画(あいちトリエンナーレ事業申請予定)を製作する予定である。活動の継続により、人的ネットワークの拡大、ノウハウの蓄積、確実な成果の積み上げができるようになってきている。それにより、市民の方にも広く知られるようになり、多くの方に映画をご覧いただき、観て下さった方々との意見交換も活発に行っている。

審査基準⑤ 活動実績と主体性

- ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
(団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
- ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。
※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

名古屋活動写真は、2008年1月に「円頓寺活動写真」として発足しました。
同年に地域まちおこし映画「歪屋」(自主製作映画)を製作し、名古屋の地元市民のボランティア参加により、円頓寺・四間道界限、建中寺、名古屋城など歴史的名所等でロケをし、地域の魅力を映像作品で発信してきました。
また2010年は名古屋開府400年にあたり「大山車まつり」が行われ、地域に根付き、継承されてきた山車及び山車文化、これをにちなう保存会などの市民の活動を記録映画「開府四〇〇年 名古屋の山車祭り」として残しました。このプロジェクトから「名古屋空襲を語る」「七間町橋弁慶車お囃子の復活」と「名古屋空襲を語る」の記録映画製作につながりました。

平成22年度(2010年度)以降

- ・映画「開府四〇〇年 名古屋の山車祭り」の上映会、講演会 市内9か所
- ・映画「七間町橋弁慶車お囃子の復活」の上映会、講演会 市内4か所
- ・上記2作品の市内上映事業を名古屋市芸術文化団体活動助成の申請中)
- ・映画「名古屋空襲を語る」の上映会、講演会 市内5か所

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。